



会長 橋本八右衛門 青少年奉仕 正部家光彦  
副会長 妻神 和憲 幹事 小田山紀暢  
クラブ奉仕 石橋 信雄 会計 岡崎 孝文  
会長エレクト 山村 和芳 会場監督 鶴飼 寿栄  
職業奉仕 小井田和哉 直前会長 紺野 広  
社会奉仕 深澤 隆 副幹事 中村 稔彦  
国際奉仕 深澤 隆 会計補佐 浜谷 英幸

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル  
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内  
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661  
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp  
http://hachinohe-rotary.org/  
会報・広報委員長 宮下 悟 同副委員長 峯 正一  
同委員 松林 拓司 同委員 上村 奉樹

国際ロータリーのテーマ — 2024~25 — 八戸ロータリークラブのテーマ

ロータリーのマジック

学ぼう、つながろう、そして一歩前へ！  
～個人を磨くとクラブも輝く！再構築ロータリー～

国際ロータリー会長 ステファニーA.アーチック

八戸ロータリークラブ会長 橋本 八右衛門

## 3月は水と衛生月間です

第3344回例会 2025.2.19

### 会長要件 橋本八右衛門 会長



先々週末2月8日に八戸パークホテルで、地区職業奉仕フォーラムが開催されましたので、その報告をさせていただきます。名簿上の参加人数は45名、八戸クラブからは村井達さん、小林幹夫さん、道尻誠助さん、小田山紀暢幹事、わたしのメンバーで参加しました。内容は講演会があり、その後、職業奉仕についてのRLI方式のワークショップの構成でした。

講演講師は国際ロータリー第2570地区東京八王子南ロータリークラブ所属の大本山高尾山薬王院貫首の佐藤秀仁さんで、テーマは

漫談「なぜ人々がこの山に集うのか。人間が人間らしく生きるためには」というお題目での講演でした。

これは地区職業奉仕委員長の八戸東RCの岩岡隆雄さんが何の会合かわかりませんが、たまたま隣に座ったのがその佐藤秀仁さんで、お互いにロータリーのバッジを見てロータリアンだねということが始まりだったそうで、まさにロータリアンの理想のつながりという

ことで、今回講師として呼んでいただいたということです。

八王子の高尾山にお寺があるので、話の前半戦は昔の八王子の歴史、その後に現在の八王子がどんな感じなのかということで、画像などを交えて説明がありました。わたしもサッポロビールに務めていたときに八王子に暮らしておりまして、近くに高尾山があったのですが結局一度も登らず。中央線で乗り過ぎたときに終点が高尾山というところだったので、そこからだいたいタクシーで3,400円くらいで八王子の市内に戻った、という思い出しかなかったのが、ちょっと残念だったと思っています。

基本的に高尾山は山岳信仰のシンボルで、744年に行基が開山して薬師如来がご本尊で仏教を広めています。南北朝時代の後に俊源大徳が高尾山に入山して中興の祖。そこから新たな時代が始まったという説明がありました。修験道ということで、実際に今も体験はできるようですが、火渡り祭、滝行は体験できます。その他、富士山や紀伊山地などを巡る入峰修行、絶壁の上から荒縄一つで片腕で吊り下げられて死と対峙する荒行などをやっ

ているという説明がありました。

人生そのものが修行だと考えるようなことを申し上げられ、基本的には六波羅蜜という仏さまに至るまでの6つの修行、悟りの世界を求めての6つの項目がある。布施、持戒、忍辱、精進、禪定、智慧という6つのことばがあり、それぞれに意味がある。布施はすべての人に手を差し伸べる、持戒は自ら戒めることが肝要、自分のルールを作る。忍辱はいかなる辱めを受けても堪え忍ぶ。精進は日々誠心誠意尽くす。努力を怠らない。禪定は自分自身を見つめる。智慧は真実を正しく見る、正しい判断力を身に付ける。これを教訓にしてやられているということの説明がありました。ご自分もロータリアンということで、改めて意識をされているようなお話をされました。

その後、6グループに分かれて、それぞれがテーマを設けてのワークショップがありました。わたしのグループは講演を聞いた感想から入り、自分の仕事での職業奉仕とは何かから、クラブで何をやっているのかななどを議論し、最後に発表しておしまいになりました。なかなか八戸でそういうことが行われることも少なかったので、参加して良かったと思っています。何か機会があればぜひ積極的に参加していただければ、自分のためになるのかなというのが感想です。

## 幹事報告 小田山紀暢 幹事



○ロータリー手帳 お申込みについて (締切 2/21)

○4/5(土) 十和田RC創立65周年記念式典について (締切 2/28)

○4/12(土) 十和田東RC創立60周年記念式典について (締切 2/28)

○4/19(土) 八戸南RC創立50周年記念式典について (締切 2/28)

○防災協力アンケートについて (締切 2/19)

○昨日、SMB Cの渡部充さんの有志の送別会を行いました。16名の方が参加され、た

いへん楽しい会になりました。このあとご挨拶をお願いします。

## 委員会報告

親睦・会場委員会

田守拓己委員



○ニコニコボックスの報告

・誕生祝

高田文昭・吉田誠夫

築館智大・松林拓司さん

・奥様誕生日 丹波正美さん

・結婚記念日 熊谷清一・田守拓己さん

渡部 充さん これまで本当にお世話になりました。ありがとうございました。

橋本八右衛門・夏堀礼二・渡辺 孝

小林幹夫さん

渡部さん、お疲れ様でした。いままでありがとうございました。

小田山紀暢 } 峯さん、山田さん、夏川戸さ  
上村奉樹さん } ん卓話楽しみにしています。  
道尻誠助さん 風が強いなー。いやいや風  
当りが強いですよー。

渡部 充さんご挨拶



今年で日興証券に入りました30年目を迎えます営業一筋8ヶ店務めて参りました。その中で自分の財産になっていると思うことが一つあります。

それは“出会い”です。若い頃から名刺一つで、ここにいらっしゃる皆様のような「会社のリーダーであったり、医学、法律などの専門資格を有しておられる方であったり、高い倫理観をもって貢献されてきた方々と接することで、そういう方々の人生観や考え方、武勇伝、また失敗談などをお聞きして自分もいい体験をさせてもらっているなという財産を築けてきたかと思っています。一方で、お客様と取引金融機関との関係という、どうしても越えられない壁みたいなものをどこか感じていましたが、お会いしてきた方々のon offのonの部分を見て来たかなと思います。

ところが八戸ロータリークラブに加入させていただいて、そんな壁をまったく感じることなく、最初は例会参加でもいろいろ緊張をしていましたが、最初に入ったときでも皆さんひじょうに優しく接していただいて、導いていただいて、気づけばいろいろな活動、飲み会を楽しめた1年半ちょっとでしたが、時間をすごさせていただけれたかなというふうに思っています。

なかなか会社内では部下、上司、評価する者、評価される者というふうで、どうしても童心に返って一緒に遊ぶという仲間はそうそういかなかったと思いますが、この場では本当に腹から笑ったりする時間を過ごさせていただきました。以前、橋本昭一さんが「ロータリーは大人の幼稚園」とおっしゃっていたときがありましたが、本当にその通りだと思えるような素敵なロータリアン人生を送らせていただき、本当にありがとうございました。

来る2月末日で、わたしの務める八戸支店は青森支店と統合して閉鎖します。まことに残念ではありますが、ロータリーを退会させていただくこととなります。本当に支えていただければいい、何ら貢献らしいこともできないまま去るのは本当に心苦しいのですが、ここで皆様と過ごさせていただいた時間や積み上げられた経験などを活かして、どこに行くかわかりませんが、(取り敢えず青森に行き、青森で働いていると思いますが)、行った先々の地域で楽しんで貢献できるように頑張っていきたいと思っています。

皆さま方におかれましても、くれぐれもご自愛いただきまして、楽しく豊かなロータリアン人生を送っていただけたらと思っています。本当にありがとうございました。

司会：お手元のホワイトチョコレートは渡部さんからです。ありがとうございました。

### 3分間スピーチ

峯 正一さん

初めての方はびっくりすると思いますけれども、機械を使って話をしますので、よろしくをお願いします。



今日はわたしの病気ががんの話をしたいと思います。正式な病名は食道がんです。2005年2月に東京の癌研究会有明病院で手術をしました。

最初に、手術の前に担当の先生から鼻から内視鏡を入れられて、ものの2、3分もしない一言が今でも忘れられません。「峯さん、あなた、もう声が出なくなりますよ。」たった一言。手術とか、放射線とか、化学療法とか。そういう話はしないで、何がなんだか分からないで帰って来た記憶があります。入院に際しては、ランニングマシーンで走ったり、肺活量を調べたり。後から分かったのですが、たぶんどのくらいの肺活量があるか調べて、大丈夫だったと思います。

わたしの行っている病院は外国の方も来ていまして、近くでは韓国や中国の方も来ています。わたしが驚いたのは、この前、築館さん、接待さんとかPET検査の話が出ていて私もCT検査、PET検査をやり、3、4回やったときに協会健保から手紙が来て、「あなたはこんなに検査するのに何か必要ですか？ 担当のドクターから意見を聞いて手紙をください。」というのが来ました。たぶん診察代が高いので、保険がたいへんなので、そういうことで手紙が来たと思います。それ以来PET検査はやっていません。

またもう一つPET検査ではエピソードがあります。新幹線のグランクラスができたときに、今年はこれで最後だからとグランクラスで行ってPET検査を受けたら、ちょっとひっかかりました。大腸に影がある。それで大腸検査をやるために予約がとれないので、八戸に帰ってもう一回出かけて検査をしました。それからまた診察の結果を聞くのに3往復しましたが、結局は大腸そくしつという簡単なものでした。この時の診察料が確か170円で、高い新幹線代についたと今でも覚えています。

最初退院してから1か月に1回通わせて下さいと女房が言ったら、担当の先生が笑ってました。1か月ごとに半年くらい通って、そ

れから3か月、今は6カ月ごとに通院しています。またわたしの担当の先生が去年の1月から昭和大学に移りまして、毎週水曜日と金曜日に診察でしたので、わたしは金曜日に

行っていました。去年から水曜日1回しか出ていませんので、例会を休んで行っています。これから年に2回水曜日は休みますので、宜しくお願いします。



## 会 員 卓 話



山田慶次さん

今月に入ってから大きなニュースの1つに首都圏での道路陥没事故というのがあります。この事故の修復はだいぶ時間がかかるようですが、インフラ整備の重要性を認識させられた事故ではないかと思っています。1年前に起きた能登半島地震も1年あまり過ぎましたけれども、インフラ整備の遅れから被災者の避難生活がまだしばらく続くという報道もなされています。いずれにしても一刻も早い復興、復旧を願うものです。また今年は阪神淡路大震災から30年目の節目の年ですが、日本はいつどこでどんな事故が起きるかも、起きてもおかしくない状況が続いています。

八戸でも過去に大きな災害が何度も起きていますが、繰り返し起きた災害の1つに、60年くらい前1968年に十勝沖地震というたいへんな災害が起きました。その災害を受けた当時、八戸市の水道部の部長をされていた方が、担当する水道管が甚大が被害を受け、飲料水の給水や災害復旧を迅速にできなかった。こういうことから、これからも絶対に繰り返されるのが予想される災害時の応急の飲料水や災害復旧をするために必要なことをしなければいけない、ということで、いち早く計画をし、また提案をし、実行された方がおられました。60年前に地方の規模の小さな自治体の行政マンが自身の担当することの中から活躍され、当時全国でも注目されました。その方の紹介をしたいと思います。

お名前は田邊一政さん。1919年に青森市で生まれて、1963年に八戸市水道部部長に就任されています。その就任5年目の1968年に十

勝沖地震が起き、八戸がたいへんな災害を受け、水道の被害も大きく、その復旧に務めました。その災害復旧の経験からこれから地震が起きたときに被害を少しでも軽減する方策を計画し、提案、実行された方です。田邊さんが行ったことは5つほどあります。

- ①水道管の耐震管の製品化と敷設を全国に先駆けて行ったこと。
- ②中小の市町村の行政区域を外して、広域行政の統一した水道事業を進めたこと。
- ③災害時の応急の飲料水確保のために、水道管のループ化を行ったこと。
- ④一般住宅の水道管の水洗や耐寒使用の品質向上を図り、東北でも統一化を進めたこと。
- ⑤水道工事の技術者の東北での統一した資格試験を図って、技術者の移動を容易にした。または東北での工事業者の資格制度も統一して、寒冷地の水道技術の平準化を進めたこと。

この大きな5つのことをやりました。今いったこの5つの事業は本来なら国や地方官庁が行うことですが、60年前の日本の状況はいわゆる高度成長の真ただ中で、大事の建造物や道路、橋、港湾などのいわゆる目に見えた整備が優先されて、水道事業は後回しにされがちだった時代のことです。そういう時代に全国に率先して、次々と革新的なことを計画し、提案、実行していったのは地方の規模の小さな行政マンとしてはたいへんな苦勞があったのではないかと思います。

行った事業の内容をもう少し話します。

- ①水道管の耐震化：60年前は全国では水道普及のために既存の水道管を先ず敷設することが最優先で、製品化も耐震化も考えがまだない時代でした。田邊さんは地震でも水道管の

揺れ状況から、水道管の耐震管の敷設の必要性を痛感し、まだ製品化されていない水道管の耐震化を水道管メーカーに働きかけ、メーカーと共に開発し普及に貢献しました。

②水道事業の広域化：地方の小規模な行政単位ではいずれは水道事業の行き詰まりが予想されることから、市町村の行政区域の枠を外して、ある程度規模の大きな広域事業として運営する道筋をつけたことです。これは現在でも全国のモデルケースとして参考にされています。

③水道管のループ化：水道管は直線ではなくオーム型に歪曲させ、いわゆる貯水する部分を作って、水道本管がダメージを受けても湾曲部分になる水で緊急時の応急給水ができるように図りました。

④水道管の品質向上：従来から水道管に鉄管を使用していましたが、長年使用していると鉄さびが出て、健康上問題があることから、水道管の内面被膜した錆の出ない管の採用を積極的に進めたこと。被覆管の採用は当時、横浜市に次いで全国で2番目の早さで、地方の早い採用に全国的に注目されました。寒冷地の防寒水洗、水抜栓など東北でもこうした寒冷地向けの製品を図り、凍結防止を進めました。

能登半島地震でのインフラ整備の遅れは大きな問題になっていますが、60年前に災害時の被害状況から、危機管理の必要性を認識しいち早く計画し、提案して、周りを説得させていろいろ実行した方が八戸におられました。すでに亡くなられましたが、その功績に対していろいろな団体から表彰された方です。八戸にはいろいろ功績を上げた方がおられますが、その中の一人に田邊一政さんがおられることを、ここにいる八戸在住の皆さんも認識しておいてもらいたいと思います。

#### 夏川戸 斉さん

上村奉樹さんから会場を大爆笑させるような卓話をしろと言われましたが、なかなか道尻さんのようにうまくいきません。15分お耳をお貸しい



ただければと思います。

まず自己紹介、ロータリーに入って感じたこと、会社の宣伝を少しさせていただきたいと思います。

わたしの名前は夏川戸<sup>なつかわどひとし</sup>斉と言います。たいへん変わっている苗字です。1958年（昭和33年）1月13日生まれ。先月無事67才を迎えることができました。生まれたのは八戸市の松館という所です。このロータリーでは転勤の方もいらっしゃるの、松館がどういうところかわからない方もいらっしゃるかと思います。八戸キャニオンという碎石場（社名は八戸鉱山）の側で生まれました。

わたしが生まれた昭和33年頃は吉幾三の“おら、東京さいくだ”のパターンです。テレビもない、電話もない、車もそれほど走ってない。まさにそういう時代で、当然写真は白黒、子供の頃は鼻をたらしながら、洋服の袖で鼻をぬぐいながら、八戸キャニオンの周りを元気よく、朝日と共に走って。そういう子供の頃でした。

資料を見たら、2014年4月14日にロータリーに入会していますので、一回りこの会に所属しているのだと思いました。入会したときに道尻誠助さん？だった記憶にないのですが、入会しました！と言ったらオウ、君はおニューかい？と言われたような。

わたしの名前は変わった苗字ですので、由来について説明したいのですが、はっきり言って由来は知りません。ただ、八戸の住所の中に“夏川戸”という字の地名が2か所あります。大久保字夏川戸（白銀の方です）、夏川戸家の総本家のある松館辺り（大慈寺の下の辺り）に字夏川戸があります。大久保の字夏川戸には夏川戸姓があるとは聞いたことがありませんが、なぜ地名が残っているのかはわかりません。糠塚にも大慈寺がありますが、その側にも夏川戸という名字の家があります。松館のわたしの地域より糠塚の方が夏川戸の軒数が多く、これも大慈寺との関りなのかとも感じているところです。わたしのほうは総本家と同じ松館に分家になりました。

わたしが育ったところはどこか。

インターネットから八戸鉱山（八戸キャニオン）の展望台から見た写真を取りました。現在海拔約170mが一番低いところです。日本で一番空が遠いところを言われているところです。こういう山の周りで育ちました。ここの鉱山の中をよくコマーシャルなどで見るKOMATSUなど大きいダンプが走っていて、展望台にはタイヤが置いてあります。この直径は2.67m。一般の住宅の天井が2.2mくらいですので、自分の家の天井よりも大きなタイヤが走っています。（わたしは鉱山の回し者ではなく、観光協会にも関係ありませんが、ただ単に紹介しているだけです。）展望台の中にある写真を見ると、歴史はひじょうに古く、明治40年の頃の鉱山の写真があります。レールを引いて馬で引っ張っていました。その後、機関車になって、トロッコで今の八戸セメントのほうに運んでいました。そういうところで元気に育ち、今は立派な大人になっています。

ロータリーについてわたしが感じたことをご紹介します。ロータリーに入ったきっかけは、わたしの会社の前任者が入会していた関係から、リタイヤするというのでわたしが代わりに入会させていただきました。当時はロータリーもライオンズも何のころやらさっぱり分からず入りました。皆さんや大先輩からいろいろ教えてもらったことを紹介します。

ロータリーとは奉仕の精神をもった個々の集まりである。ライオンズは皆で集まって奉仕活動をする。そこが違うんだと言われた記憶があります。ああ、そうなんだと思いましたが、12年経った今もたいして変わらないのでは感じているところも正直なところです。気に入ったところは毎月、月始めの例会で四つのテストをやっていますが、わたしが入会したときは会社の八戸支店の支店長でしたが、四つのテストにひじょうに感銘を受けました。わたしはまったくそのように行動していなかったと反省をしながら、こういうふうに行動しなくてはと感じたところです。そのように感じた方も少なからずいるかと思います。

もう一つは奉仕の精神はすごいなと感じま

した。財団、奨学生、交換留学生などすごいものだと感じたところです。

わたしの会社は漢字で書くと11文字あります。画数が多い感じばかりですので、領収証を書いてもらうのにひじょうに困るので、領収証は「青森三菱電機」でやめてくれと言っています。本社は青森市にあり、出先としては青森県は青森、弘前、八戸と盛岡、仙台に営業所があり、生業をさせていただいています。

主な取扱製品は三菱電機という会社名について通り、三菱電機のディーラーをしています。主に産業用製品の取り扱いをしています。目にするのはエレベーター、エスカレーター、空調機器は家庭用から業務用までさまざまやっています。なかなか目にすることはありませんがトランス、開閉するもの等など。最近では産業用ロボットに自動で供給するための制御装置、モーターなどを扱っています。さっきの取扱製品の中にはありませんでしたが、マチニワの左隅にある大型映像装置、細越さんのスタジアムの大型映像装置（オーロラビジョン）も取り扱っています。

わたしは皆さんが気づかないところで洒落をしゃべっています。誰も気づかないのでシャレなのかどうかわかりません。シャレを言うのにネタをこれに書いていいのかということもありますが、年末に起きたことをご紹介します。

わが社はものを販売する関係上、取引先にカレンダーを配ります。営業マンがカレンダーをまとめて段ボール箱に入れて車に積んでお客さんに届けるわけです。その段ボール箱が通路に置いてあり、従業員が邪魔だ。このカレンダー誰の？ わたしがすかさず、傍にいた営業マンに“彼ンダー”。忘年会で鍋が出てきました。それに鶏肉の衣がついたものが入っていました。それがなかなか箸で取れない。そこでわたしはひとこと。この鶏肉は“取りにく”い。

中村：この後、定例の理事役員会があります。

出席報告					出席委員会		
第3344回例会（2月19日）			第3342回例会（1月29日）				
出席率		61.9%	出席率		59.4%	修正出席率	65.6%
総会員数		66名	出席数	39名	総会員数		66名
出席義務会員		63名	出席免除会員	3名	欠席数		24名
出席義務会員		64名	出席免除会員	2名	欠席数		23名
					メイクアップした人数		4名